

■8月16日

ジェットスター・ジャパン(LCC)、大分線、就航4か月、羽田線と競合せず

ジェットスター・ジャパンの大分―成田線は3月末に、1日2往復で就航し徐々に定着し、競合で利用減が懸念された東京(羽田)線に今のところ大きな影響はなく、ビジネス需要が高い東京線と観光需要を掘り起こす成田線で「すみ分け」がうかがえる。

大分合同新聞によると、ジェットスター・ジャパンによると、成田線の利用者数は、4月1万1547人、5月 1万2723人、6月 1万1102人。

同社によると、「観光目的での利用が広がっている。大分の温泉は魅力的な観光資源。県と協力し国内外でPRしたい」と話す。ただ土日祝日などと比べ平日の搭乗率が低いのが課題で、対策の一つとして大分、千葉両県の地元旅行会社とパッケージツアーづくりを検討しているという。

また、7月からローソンと提携して情報端末が設置されている全店で航空券の取り扱いを開始。店舗に案内チラシも置き、情報発信に努めている。

一方、東京線の利用者数(3社合計)は昨年同月比で、4月 1.1%増、5月 1.3%増、6月 1.9%増。3月末にソラドエアが増便したこともあり、増加傾向となっている。全日空は「搭乗率は昨年同期比とほぼ変わらない」、日航は「LCCは飛行機を利用したことが無い層を掘り起こした印象。利用者はそれほど流れていない」とする。

(大分合同新聞)8/15

http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137652770418.html (-> http://www.oita-press.co.jp/localNews/2013_137652770418.html)

春秋航空日本(LCC)、10月1日以降入社、予約センタースタッフ募集

春秋航空日本は、HP上でコールセンタースタッフの募集を開始した。募集人員は若干名、勤務地は成田。入社は10月1日以降会社の指定日。

同社は、数週間前には基幹要員となる客室乗務員の採用も開始している。

(春秋航空 HP)

<http://www.china-sss.com/jp/job/JobDetail?PostId=961&CateName=%e5%b8%82%e5%a0%b4%e4%bc%81%e7%94%bb%e9%83%a8%e9%96%80&type=0> (-> <http://www.china-sss.com/jp/job/JobDetail?PostId=961&CateName=%e5%b8%82%e5%a0%b4%e4%bc%81%e7%94%bb%e9%83%a8%e9%96%80&type=0>)

沖縄県、7月、入域観光客数、前年同月比6.1%増、石垣島が好調

沖縄県が15日発表した7月の入域観光客数は、前年同月比6.1%増の58万3900人で、10カ月連続で前年を上回った。石垣島方面への観光客の増加が続いていることや、沖縄とアジアを結ぶ航空路線の増便などから、5カ月連続で月ごとの過去最高を更新した。

日経によると、国内客は7.5%増の51万8700人。関西方面が17.9%増加し、全体をけん引した。関西国際空港や神戸空港と新石垣空港を結ぶ航空路線の拡充や、格安航空会社(LCC)の参入効果が続いた。景気改善などで、過半数を占めた東京方面も6.2%増となるなど堅調に推移したという。

一方、外国客は6万5200人と4.0%減少。同県は「中国・上海などからのクルーズ船の寄港が相次いだ前年同月の反動が出た」と分析している。ただ、円安や航空路線の増便により韓国からの観光客が3.1倍、台湾からが1.4倍となるなど堅調さは続いたという。

(日経)8/16

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO58540160V10C13A8LX0000/> (-> <http://www.nikkei.com/article/DGXNZO58540160V10C13A8LX0000/>)

ノックエア(LCC)、バンコク—ヤンゴン線就航、来年は毎日2往復へ増便

タイ国際航空系のノックエアは11月1日から、バンコク(ドンムアン空港)—ヤンゴン線に就航する。使用機材はボーイング737—800型機(189席)、週4往復で開始し、12月から週8往復、2014年1月から毎日2往復に増便する。

ノックエアは現在、国際線を運航していないが、9月1日からタイ北部メーソート—モールメイン(ミャンマー)、10月1日からメーソート—ヤンゴン線を運航する予定。使用機材はサーブ340B(34席)。

(newsclip be)8/15

<http://www.newsclip.be/article/2013/08/15/18700.html> (-> <http://www.newsclip.be/article/2013/08/15/18700.html>)

ロシア極東に新会社、ウラジオストク航空とサハリン航空が統一へ

この冬にはロシア極東で、地元の航空会社のウラジオストク航空とサハリン航空が統合されて、単一の航空会社が創設される。サハリン航空によると、新会社の名称はまだ定まっていないが、航空機のデザインは承認済みだという。

ロシアNOWによると、両社は、2011年以来、スカイチームに加盟する露最大手のアエロフロート・グループに入っていた。アエロフロートの主な目的は、この地域に大きな航空会社を創って、第一に、極東での航空路線網の発達を加速させること、第二に、中国およびロシアの競合他社との競争を容易にすることだと、専門家らは見ている。

サハリン航空によると、この統合で雇用が創出され、極東の航空路線網が著しく拡充されるだろうという。

新会社のビジネスプランによれば、2018年までに、便数は172から534に、路線数は30から128に増えるほか、年間240万人の旅客を運ぶことを見込んでいる。昨年度、ウラジオストク航空を利用した旅客数は160万人、サハリン航空は27万人だった。

(ロシアNOW)8/15

<http://roshianow.jp/business/2013/08/15/44571.html> (-> <http://roshianow.jp/business/2013/08/15/44571.html>)

キャセイパシフィック航空、香港 — ニューアーク線、来年3月就航、米国5都市目

キャセイパシフィック航空はこのほど、2014年3月1日より毎日1便体制でニューアーク・リバティー国際空港への運航を開始すると発表した(政府認可申請中)。使用機材は、ニューヨーク線と同様のボーイング777-300ER型機。

同社にとって、ニューアークはシカゴ、ロサンゼルス、ニューヨークジョン・F・ケネディ空港、サンフランシスコに次ぐ、アメリカ合衆国への5番目の玄関口となる。

また、ニューアーク市はマンハッタン島の西に位置するため、現在毎日4便体制で運航しているニューヨークのJFK路線を補うことができる。

(マイナビ)8/15

<http://news.mynavi.jp/news/2013/08/15/124/index.html> (-> <http://news.mynavi.jp/news/2013/08/15/124/index.html>)

IAG、短距離路線航空機、エアバス選択、A320型機—最大220機発注予定

(ロイターによると)

英ブリティッシュ・エアウェイズ(BA)とイベリア航空の親会社、IAGは、短距離路線用航空機の刷新に向けて再び防衛大手EADS傘下エアバスを選んだ。A320型機を最大で220機発注する予定だ。最大で200億ドル相当となる。

IAGによると、短距離路線では現在エアバスA320型機系列から231機を運航し、米ボーイングのボーイング737型機は18機のみとなっている。

BAは長距離路線ではボーイング機を主に運航している

(ロイター)8/15

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0GG2R420130815> (->

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPL4N0GG2R420130815>)

台湾—中国大陸、定期旅客便、1週間670便増便へ

(産経bizによると)

台湾海峡交流基金会(海基会)はこのほど、台湾と大陸の間の定期旅客便数を1週間当たり616から670に増やすと発表した。定期貨物便については、天津、鄭州、寧波を新たな拠点とするとともに、1週間当たりの便数を56から68に増やすことになった。海基会と海峡兩岸関係協会(海協会)がこの日、文書を交換したという。

海基会によれば、両会が2008年に海峡兩岸空運協定に署名し、09年8月に定期便が正式に開通して以来、海峡兩岸の直航便乗り入れ空港、便数は増加を続けている。

(産経biz)8/16

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/130816/mcb1308160501008-n1.htm> (->

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/130816/mcb1308160501008-n1.htm>)